

平成25年度第1回 技術委員会資料

**オープンデータ流通推進コンソーシアム
情報流通連携基盤・外部仕様書
(平成24年度版)
Call for Comment結果報告**

2013.12.04

オープンデータ流通推進コンソーシアム 事務局

Call for Comment概要

■ 意見募集期間

- ▶ 2013年9月10日～10月10日

■ 意見募集方法

- ▶ オープンデータ流通推進コンソーシアムのwebサイトに以下の内容を掲載したページを掲載

◇ <http://www.opendata.gr.jp/cfc/>

1. 仕様書作成の背景と目的募集内容を掲載し、メールにて意見を受け付け
 2. 仕様書の規定方針概要
 3. 仕様書の作成経緯
 4. 意見の提出方法・提出期限
 5. 今後の予定
- ▶ メールにて意見を受け付け

■ 受け付けた意見総数: 6件

意見募集ページ

オープンデータを使ったシステムの構築手法を示す「情報流通連携基盤外部仕様書」に関する意見募集

2013年09月10日

1. 本仕様書作成の背景と目的

近年の情報通信技術（ICT）の進展と、それを実現する情報通信インフラの整備によって、文書や統計に関するデータのほか、センサによって計測されたデータなど、さまざまな種類のデータが情報通信ネットワークを經由して提供できるようになり、社会運営の効率性や利便性の向上に資することが期待される莫大な情報を得られるようになりました。また、それらのデータを機械判読に適したデータ形式で、二次利用が可能な利用ルール（ライセンス）により公開し、流通させようとする、オープンデータ化の動きが広がっています。本仕様書は、そのような各種のオープンデータを登録・利用するアプリケーションやサーバの構築方法を示すことにより、これらの構築を容易にすることを目的として作成しているものです。「情報流通連携基盤」とは、アプリケーションやサーバによりデータを流通・連携させるための、汎用性を持つ技術・運用ルールが整った環境をいいます。

2. 本仕様書の規定方針概要

オープンデータを登録・利用するアプリケーションやオープンデータを提供するサーバを構築するには、アプリケーション・サーバ間でオープンデータを交換するためのデータモデルやデータフォーマット、API等が必要です。一方、アプリケーションやサーバ間でオープンデータを交換するための規格として、すでに広く普及しているものが数多くあります。本仕様書は、データ交換のためのこれら既存の規格を最大限に利用し、相互運用性を考慮して作成しています。また、本仕様書に記載された機能のうち必要なものを選択して、アプリケーションやサーバを実装できます。また、ユーザビリティの確保や性能向上のため、独自の拡張を行うことも許容されます。

3. 本仕様書の作成経緯

本仕様書は、平成24年度において検討・作成され、同年度の実証事業における公共交通・地盤・防災・トレーサビリティの各分野に適用され、それらからのフィードバックが反映されたものです。今回、「オープンデータ流通推進コンソーシアム」の技術委員会において、本仕様書のCall for Comment（意見募集）を行うこととなったものです。

4. 意見の提出方法・提出期限

- 意見の提出方法
下記要領・書式に基づき提出願います。
[意見募集要領](#)
[意見書様式（Wordファイル）](#)

- 意見募集の対象
[情報流通連携基盤 外部仕様書](#)

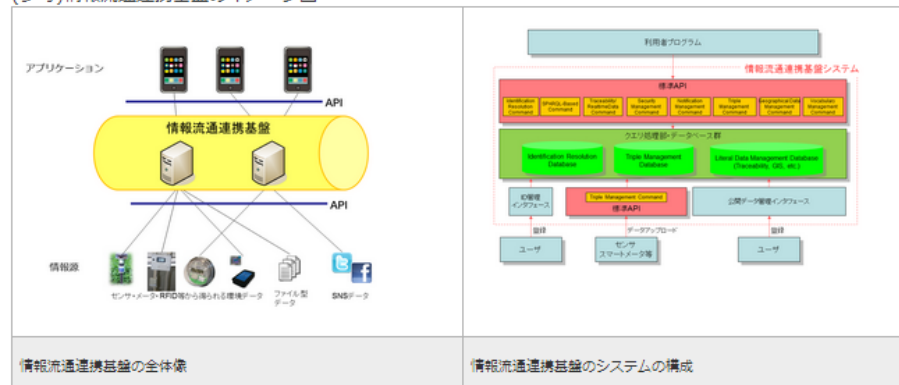
- 提出期限
平成25年10月10日（木）まで

- 提出先
oddp-comment[at]opendata.gr.jp
※上記電子メールアドレスには、迷惑メール対策をしております。[at]を半角の@に置き換えてメールを送信してください。

5. 今後の予定

今回の意見募集において頂いたご意見や、今年度実施される実証事業等からのフィードバック等を踏まえて更に検討し、改善した仕様を来年度version 2.0として公開いたします。

(参考)情報流通連携基盤のイメージ図



(本件お問い合わせ先)

オープンデータ流通推進コンソーシアム 事務局（情報流通連携基盤外部仕様書 担当者）

電子メール：opendata-cfc-info[at]opendata.gr.jp

※上記電子メールアドレスには、迷惑メール対策をしております。[at]を半角の@に置き換えてメールを送信してください。

意見概要

■ 他の規格との連携・関連性に関する意見

- ▶ 他の団体で規定されている規格等（たとえば下記）との連携をしながらブラッシュアップすべき。
 - ◇ W3C: Linked Data Platform
 - ◇ IMI (Infrastructure for Multi-layer Interoperability: 共通語彙基盤)
- ▶ これらの規格が改定・更新されることにも考慮すべき。
 - ◇ たとえば、RDFは現在W3C内で改訂作業中

■ セキュリティに関する意見

- ▶ APIの「制限事項」に記載されているユーザになるための条件が明確でない。
- ▶ データベースの構築に関するセキュリティ要件が必要である。

■ その他

- ▶ 「データ規格」や「API規格」に加えて、サーバ構築方法や利用方法に関するガイドが必要である。
- ▶ 日本の歴史・伝統的文化に関するボキャブラリを整備してはどうか。
 - ◇ 文化財関連／和暦や尺貫法／伝統工芸品 など



OPEN DATA

オープンデータ流通推進コンソーシアム